

平成 27 年度の総会を開催しました

平成 13 年、通気・防水シートキャッピング工法研究会を設立、14 年目の総会を開催、全ての議事を満場一致で可決し新たな気持ちで再スタートいたしました。この間廃棄物処分場の延命化、各覆土の飛散、廃棄物の安定化等の研究に邁進してきました。

[即日覆土、中間覆土]

土質覆土(厚さ 30cm~50cm)に対し、厚み約 1~2mm のジオシンセティックスに置き換えることが出来、大幅な延命対策に貢献できることが判明しました。

これらにつきましては、環境省発刊、廃棄物処理施設の発注仕様書作成の手引きに、土質材料等による従来の覆土以外に、ジオシンセティックス等を用いた覆土代替材による施工も可能であると明記されました。

これらによって、飛散問題も解決されると考えられ、是非実現化をお願いするものです。

現在は、これらの技術をもとに、放射性廃棄物の除染仮置き場、今後、予定されている中間貯蔵施設対応に研究を傾注しています。このような環境の基に平成 27 年度の総会后に研究成果発表会を開催いたしました。

[研究成果発表会]

- ・ 仮置場における技術課題と等研究会の取り組み
- ・ その他の取り組み(セシウム吸着、封じ込め、遮蔽)
- ・ 仮置場の施工事例

最後に、(独)国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センターの大迫センター長、大迫政浩様

より [除染から中間貯蔵へ～技術的課題と展望～] の基調講演を頂きました。



資料請求は事務局をお願いいたします。